

## フムラ支部とダルマスタリ学校

特定非営利活動法人ミランクラブジャパン

理事長 マナングール マダーブ ナラエン

フムラ支部は MCN（ミランクラブネパール）の一番新しい支部である。現在 MCN の事務的な仕事、情報収集、会報作成、奨学金関係は元里子のラミタ・マハルジャンが行っている。ラミタにはその他にダルマスタリ学校の仕事もある。里子の数が増え、より支援を必要としている地方への支援が広がるにつれ支部ができてきた。ラミタが奨学金を届けることができない地方は支部の立ち上げは必要不可欠であった。

ネパール国内で最も貧しい地域の一つであるフムラへは支援の手が届きにくい。MCN アマル・マリ副会長の知り合いだった商人を通して地域の実情を知ることができ、ミランクラブの支援を伝えることもできた。奨学金が確実に子供たちに届くようお手伝いしてくれるメンバーも集まり支部を立ち上げることができた。



支部長のお兄さん(右から二人目)に出迎えられて

フムラ支部は支部長 1 名、副支部長 2 名、監事 1 名、会計 1 名、副会計 1 名、他メンバー 4 名の計 10 名である。他の支部もそうであるようにフムラ支部も全員

女性で構成されている。女子の就学支援に女性が関わることで、意識を高め、助け合い、問題を解決していくことは大切なことだと思う。もちろん地域社会での男性の意識改革も必要だ。

タマン支部長は商人の妹で 40 代、一家の主婦でもありハーブ関係の仕事もしている。支部としては支援を広げて地域の女性にも職業訓練を実施してほしいと願っている。

フムラへ行って印象深かった一つにシミコット村で飲んだバター茶がある。ミルクティー代わりに飲まれているバター茶はネパールのバター、ギーを使う。味は甘くなくマイルドな塩味になる。

フムラから戻って 8 月 23 日、MCN 会計担当のサガル氏、支援者のダルマ氏、NIFJ 元会長の加藤ギヤヌ女史とダルマスタリ学校を訪問した。カトマンズから北へ約 8km のダルマスタリ村へは 20 人乗りの小さなバスが往復している。観光客の多いタメル地区からは一回乗り換えなければならない。私たちはサガル氏の車で向かった。ダルマスタリ村に近づくにつれ、のどかな田園風景が広がり雨季の季節だったこともあり田畑の緑が美しかった。校長先生方、日本から行っていた齋藤さん、ラミタさん、スミトラさんが出迎えてくれた。学校は授業中で、生徒たちの音読や発言する声がよく聞こえていた。

私たち一行は授業中の各クラスを視察

し、授業が終わったところで、先生方と懇談した。この3年間、ダルマスタリ学校からのSLC（全国統一高等学校卒業資格）試験には全員合格し、また優秀な成績を残すこともできている。毎年の全国平均合格率は50%前後であることからして子供たちや学校の頑張りが見て取れる。地域での評判で入学者も以前より増えているため、先生方は快適な環境作りをしたいと語った。

ダルマスタリ学校には会員の齋藤さんが音楽の先生として2014年4月～9月の



齋藤先生

6ヶ月間滞在していた。詰め込み教育の中、思いもしなかった音楽授業（ネパールではゆとり教育になるかもしれない）を受けることができ、

子供たちは喜んでいました。齋藤さんの帰国後、音楽クラブができ、自主的に大好きな音楽を続けることになった。

その日はダルマ氏を除き皆がダルマスタリ寄宿舎に泊まり、もちろん齋藤さんは滞在しているので一緒に、寄宿生22名と交流を図った。子供たちは勉強熱心で、将来は良い成績で卒業し、留学もしたいと希望する女子もいた。皆で夜遅くまで歌ったり、雑談したりと楽しく過ごした。今回ネパール訪問できなかった小林理事から子供たちへ文房具のプレゼントが届いていて、手渡すこともできた。子供た

ちからは小林理事にも是非次回は学校訪問して欲しいと言われた。



プレゼント配布

翌24日、ホールで齋藤先生から教わったネパールと日本の曲を私たちに披露してくれた。演奏に使った楽器は齋藤さんが日本から持参した電子ピアノと以前日本から学校へ贈られたピアノカで、生徒たちは上手に吹きながらの演奏をしていた。先生方は、このような素晴らしい時間を共有できたことはとても意義深い、これからも音楽を継続していきたいと語った。

今回の帰国でも教育現場である学校を



生徒たちの演奏

の大切さを再確認した。先生方も意見交換できて学校の将来をかいま見ることができた。